

## 第二章 風土に根ざした家づくりのくふう

### 2-1 風土に根ざした住まいの表情

強い日差しと雨風から建物を守り、私たちの暮らしを守る住まいの形(外観)は重要です。沖縄らしい外観は建物や暮らしを守るだけでなく、地域の景観の一部として潤いある表情をもたらしてくれます。

#### (1) アマハジ的空間を…

・ 伝統的なアマハジ空間は、影をつくり涼を呼び、生活にかかせない豊かな表情をつくりだします。

#### (2) 壁面を柔らかく…

・ 暑さを和らげるために、閉ざされた大壁ではなく、風が通り抜ける面による柔らかい表情をつくりましょう。

#### (3) 大きな形状は分割して…

・ 大きな屋根は、小さく分割して陰影をつけ、伝統的な集落のイメージを作りましょう。

#### (4) 地域の素材(材料)による表現を…

・ 石垣や赤瓦、花ブロック、琉球ガラス等で構成された素材(材料)で沖縄らしい表情を作りましょう。

#### (5) 周辺と調和した景観を…

・ 周辺のまち並みや素材に調和したゆとりある外観で、外部と一体感のある表情をつくりましょう。

#### (6) 新しい形で風土の表現を…

・ 新しい素材(材料)や工法を用いた構成による新しい形態で、沖縄の伝統的な空間を現代的に再現しましょう。



久護家住宅(名護市屋部) 地域の景観の一部として潤いをもたらしています

## (1) アマハジ的空間を…



深い庇と影のある彫りの深い形状は、豊かな生活空間をつくります

## (2) 壁面を柔らかく…



格子やルーバーなどでつくるスリット(すきま)は、大きな壁面の圧迫感をなくし、建物の表情を柔らかくします

## (3) 大きな形状は分割して…



小さな屋根の組み合わせが沖縄らしいイメージをつくり出し、分離された屋根や分割された多くの壁面で構成された陰影は涼しさをさそいます

## (4) 地域の素材による表現を…



石垣囲いや、赤瓦屋根で地域の材料のもつ質感を出し、沖縄らしい雰囲気をかもしだしています

## (5) 周辺と調和した景観を…



周辺の表情と調和した屋上緑化で、ゆとりと潤いのある住環境を作りだしています

## (6) 新しい形で風土の表現を…



鉄筋コンクリートと鉄骨等の構成による新しい形で、沖縄の伝統的空間を再考し、日射調整、風通しの確保等気候風土を考慮した現代的な家づくりをしています

## 2-2 敷地形態を活かした住宅

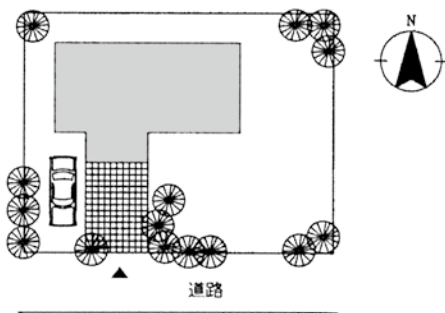
敷地の形態にはいろいろあり、その活用方法を考えることが、家づくりの第一歩です。道路、周辺環境、方位等を総合的に踏まえ光や風をうまく利用する住宅配置が望ましいと言えます。

住まいの配置と屋敷囲いは、道路や隣近所との関係を位置づける重要な要素です。家並みやまち並みを親しみのあるものにする上でも十分な配慮と思いやりが望まれます。

建物の配置を工夫して、敷地にゆとりをつくり植栽をします。植栽は緑の柔らかな景観をつくるだけでなく植物の持つ蒸散作用によって、周辺の温度を下げる効果があり、涼しい風も呼び込みます。

### (1) 南入りの敷地

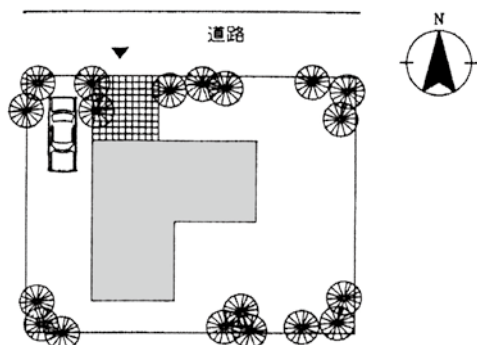
- ・ 通路側に庭をつくり、植栽をすることで南風を呼び込むことができます。
- ・ 南東に開口部を設けて、光、風を入れることができます。
- ・ 庭と一体となった解放感のある豊かな表情が作れます。



アプローチと一体となった庭が広がり豊かな表情をかもしだしています

### (2) 北入りの敷地

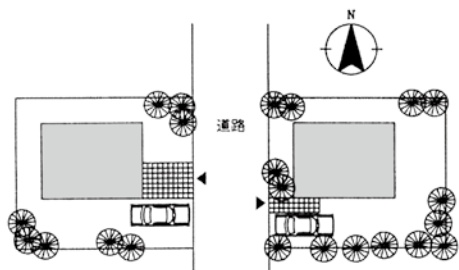
- ・ 冬における、風と光の調整が必要です。
- ・ 南東に庭を設けて、風、光を取り入れるようにしましょう。
- ・ 隣地側に開口部を開くので、プライバシー等に工夫が必要です。
- ・ 北側が、閉鎖的になりがちのため道路沿いにゆとりがある表情をつくりましょう。



道路側の植栽などで通りに潤いを与えています

### (3) 東西入りの敷地

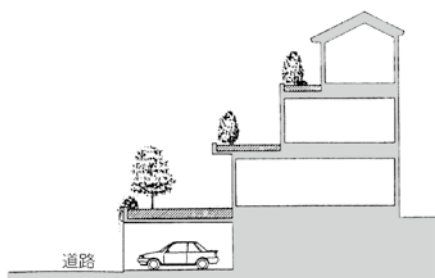
- ・朝日や西日を遮りながら植栽や格子ルーバー等を用いて涼しさを感じる表情をつくりましょう。
- ・隣地側に開口部を設ける場合は窓の配置、形状に考慮しましょう。
- ・道路側の表情を活かすデザインにしましょう。



開口部の配置や植栽等で隣地に配慮しています

### (4) 道路より高い敷地

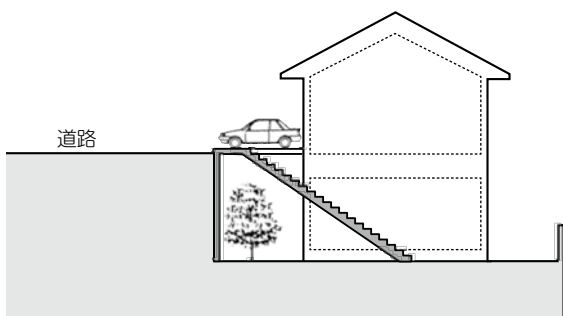
- ・道路側に圧迫感がないように植栽等で工夫しましょう。
- ・建物をひな段状に計画するのもひとつの工夫です。
- ・敷地の利用と共に車庫やアプローチと一体となった断面計画が必要です。



擁壁や植栽に工夫し、道路側への圧迫感を柔らげています

### (5) 道路より低い敷地

- ・平面計画と共に、断面計画で風、光、湿気、排水等に工夫が必要です。
- ・光を取り入れ、湿気を抜く為、ドライエリア等を設けましょう。
- ・雨水、排水等の処理には特に注意が必要です。



道路側に車庫を設け、外部階段を利用して敷地側へアプローチしています

## 2-3 間取りについて考える

### (1) 涼しさは平面プランから

間取りを考える場合は、まず南に開き開放的で快適な間取りを考えると共に、日常生活における家族の対話の図れる家づくりを目指します。さらに、家庭内での行事の多い沖縄の生活習慣を考慮し、「つづき間」的な間取りを考えましょう。

#### ■風が通りやすく…

沖縄の夏の風は、南の方向が主なので、開口部は南に開くように計画することが望ましい。風を十分に取り入れて涼しく生活ができるように計画しましょう。

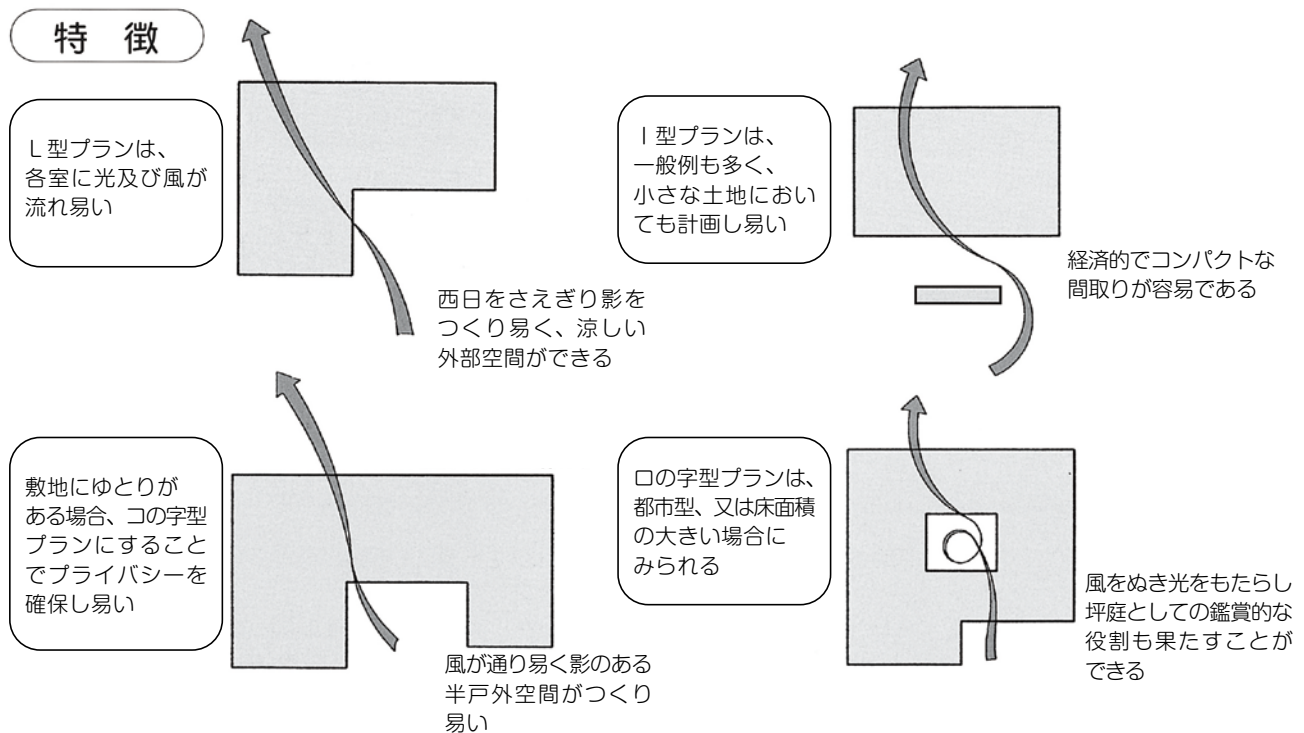
#### ■「つづき間」の生活空間を…

多世代の同居や、親類などが集まる行事が多いことから、家族の対話が図りやすく、多目的に使える「つづき間」の平面計画が望ましい。

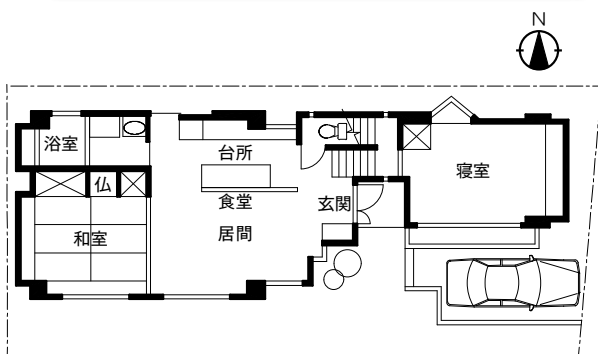
#### ■方位について…

家の向きや玄関の位置に加えて、仏壇、台所、風呂、便所などについても、十分に検討することが望ましい。仏壇は、南又は東に向くのが一般的です。

### (2) 平面の基本形について

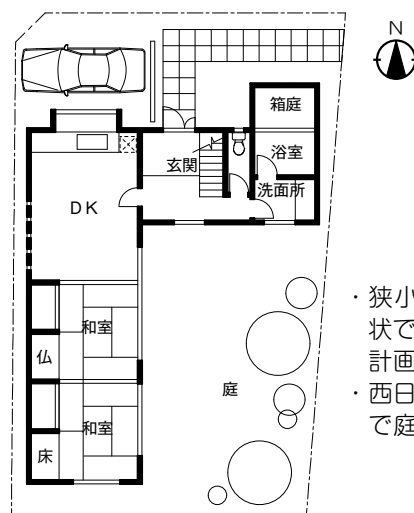


## 南に開いたI型住まい



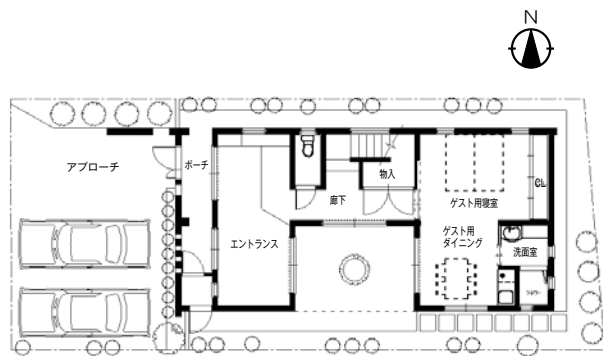
- ・南面にハキ出しの大きな開口を設け、風を通り易くした計画
- ・経済的な計画である

## L字型に配置された住まい



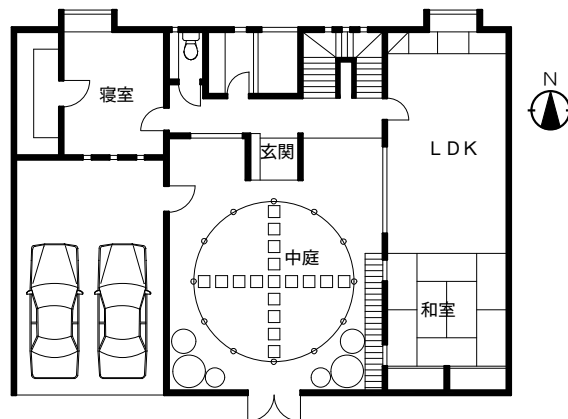
- ・狭小敷地にL字型状で採光を確保した計画
- ・西日をさえぎることで庭に影ができる

## コの字型に配置された住まい



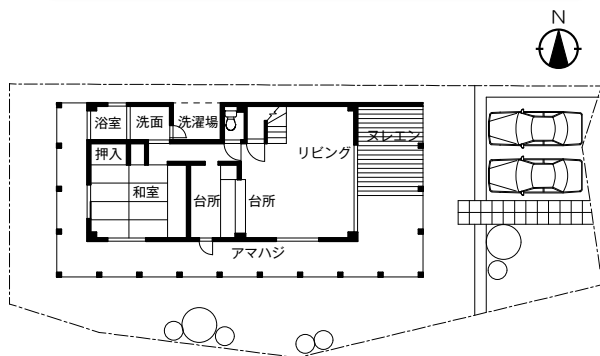
- ・コの字型にかこまれた庭に面した開口を設け、風と光を取り入れる事のできるプラン

## 中庭のある住まい



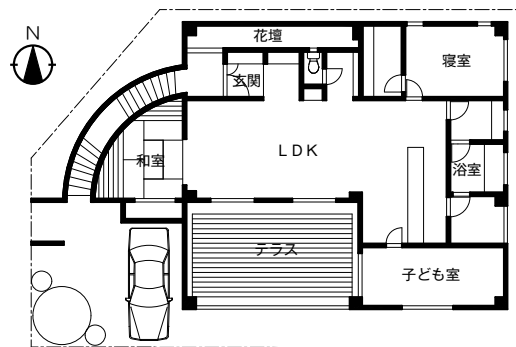
- ・中庭を設け風と光をとりいれる
- ・内部全体が見渡せることができ外部からのプライバシーを守ることができる

## アマハジのある住まい



- ・南面にハキ出しの大きな開口を設け、風を通り易くした計画
- ・伝統的なアマハジで影をつくりだす

## 半戸外のある住まい



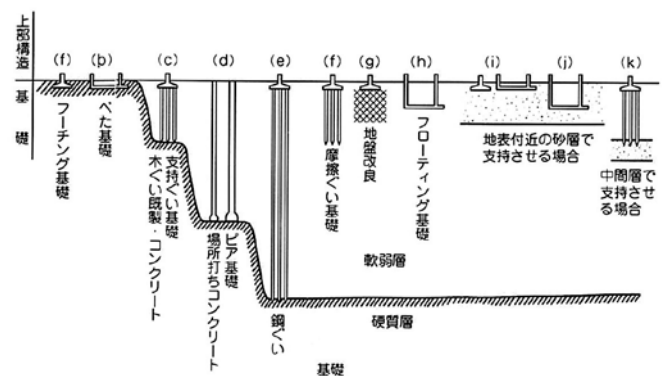
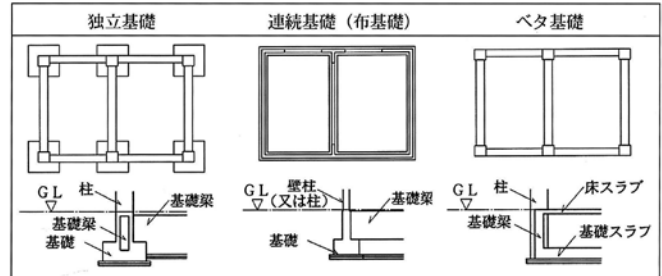
- ・リビングと一体となった使い方ができる半戸外のテラス
- ・半戸外をつくることで外部からの視線をさえぎる

## 2-4 構造について考える

建物の構造形式にはいろいろな種類があり、その選択は構造的にも意匠的にも大きなポイントになります。それぞれの構造形式には特性がありますので、コスト、敷地形状、平面計画等をよく考えた上で選びます。

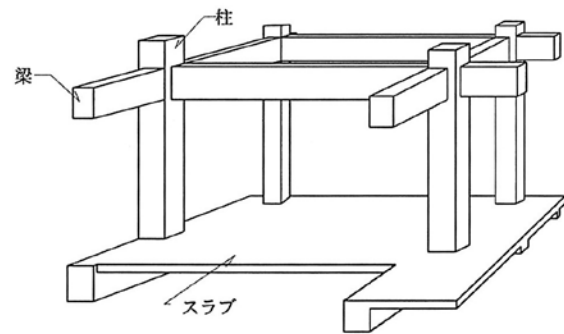
### ■基礎

- 住宅でよく使われる基礎は、大きく分けて右図のように、独立基礎、連続基礎、べた基礎の3種類があり建物の構造形式や地盤の状態に応じて最適なものを選びます。
- 軟弱な地盤で十分な支持力が得られない場合、杭によって下層の堅固な地層に支持させます。杭にも支持杭や摩擦杭等いろいろな種類があります。また、それ以外にも地盤改良等、多種多様な工法があります。
- 基礎の形式は、地盤の状況だけではなく建物の構造形式とも密接なつながりがあるため、建物の設計に先だって地盤調査を行う必要があります。十分な調査をして、過少設計や過剰設計を防ぎましょう。



### ■鉄筋コンクリート造ラーメン構造 (RC造)

- 右図のように柱と梁 (及びスラブ) の強固な組合せで力を負担する構造形式です。
- 柱と柱の距離 (スパン) を大きくすることができ、壁の少ないオープンな間取りが可能です。
- 窓などの開口が大きな建物に適しています。



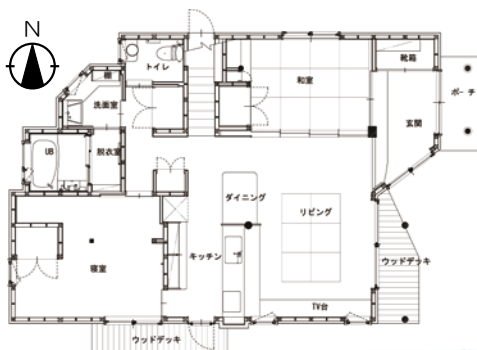
### ■鉄筋コンクリート造壁式構造 (WRC造)

- 柱の代わりに耐力壁が力を負担する構造形式です。
- 柱を気にせずに自由な平面計画が可能です。耐力壁を細かく配置する必要があります。
- RC造と比較すると大きな開口部がとりにくいです。
- 部屋単位で構成する間取りに適しています。



## ■木造

- ・木の柱と梁を組み合わせて架構する構造形式です。
- ・RC造等比べて軽いので、比較的弱い地盤でも施工可能で、RC造のような強固な基礎を必要としません。
- ・台風・火災・白アリ等の要因で沖縄では着工件数が減っていましたが、最近では木造の良さが見直されつつあり、ここ数年は着工件数も増えてきています。



## ■鉄骨構造(S造)

- ・鉄骨の柱と梁を組み合わせて架構する構造形式です。
- ・窓などの大きな開口をとることができます。
- ・外気にふれる金属には腐食対策が必要です。
- ・RC造と比較すると建物の揺れが大きいので、耐震性を高める為にブレースを適切に配置する必要があります。



## ■補強コンクリートブロック構造(CB造)

- ・コンクリートブロックを積み上げて壁体を作り、壁頂部にコンクリートの梁を配置し、その上にスラブを乗せる構造形式です。
- ・RC造やWRC造と比較して型枠の使用量が減るのでローコスト化が図りやすいです。
- ・ブロック内部の空洞に水がたまることがあるので、ブロック壁部分の防水対策等は施工時に細心の注意が必要です。



## ■併用構造

- ・例えば、1階はRC造で2階は木造や鉄骨造など、2つ以上の構造形式が混在しているもの。
- ・また、同一階で外壁はRCやCB造で構成され、梁や屋根は木造等の異種材料を組み合わせたもので各々の材料の長所を取り入れ、それぞれのメリットを活かしやすいです。
- ・併用構造は、異種構造間の特性を十分に考慮し慎重に設計する必要があります。





## 2-5 安全な住まいづくり

### (1) バリアフリー計画のポイント

#### 沖縄の建物の特徴

##### ■1階ピロティの場合

2階から住居になる為、高齢者にとって家に入るまでがひと苦労です。

大がかりな改装になりますが、ホームエレベーター・階段昇降機などの導入も念頭に置くと良いかも知れません。

##### ■雨じまい

沖縄は台風が多い為、雨じまいが重要です。

玄関に雨水を入れない様に玄関と外部とは段差を付けるのが一般的ですが、台風時に雨水の侵入を防止しながらバリアフリーを確保するには、段差の小さい（20mm程度）玄関引き戸の採用、または排水設備（グレーチング）のついた段差のない玄関引き戸とする方法があります。

##### ■トイレ出入口の段差解消

沖縄ではトイレを水洗いするのが一般的で、その為廊下から床を下げたトイレが多く、すのこで高さを調整し、段差を解消する簡易的な方法もあります。その他、最初から段差をなくすものとして、トイレ出入口に廊下と同じ高さの排水設備（グレーチング）を設ける方法もあります。

##### ■仏壇の部屋

沖縄の特徴として、知人、親戚がたくさん集まる行事も多く、中には必ずお年寄りもいらっしゃいます。

仏壇のある部屋の床（又は床の一部）で椅子の利用を想定し、フローリングとすることも考えられます。

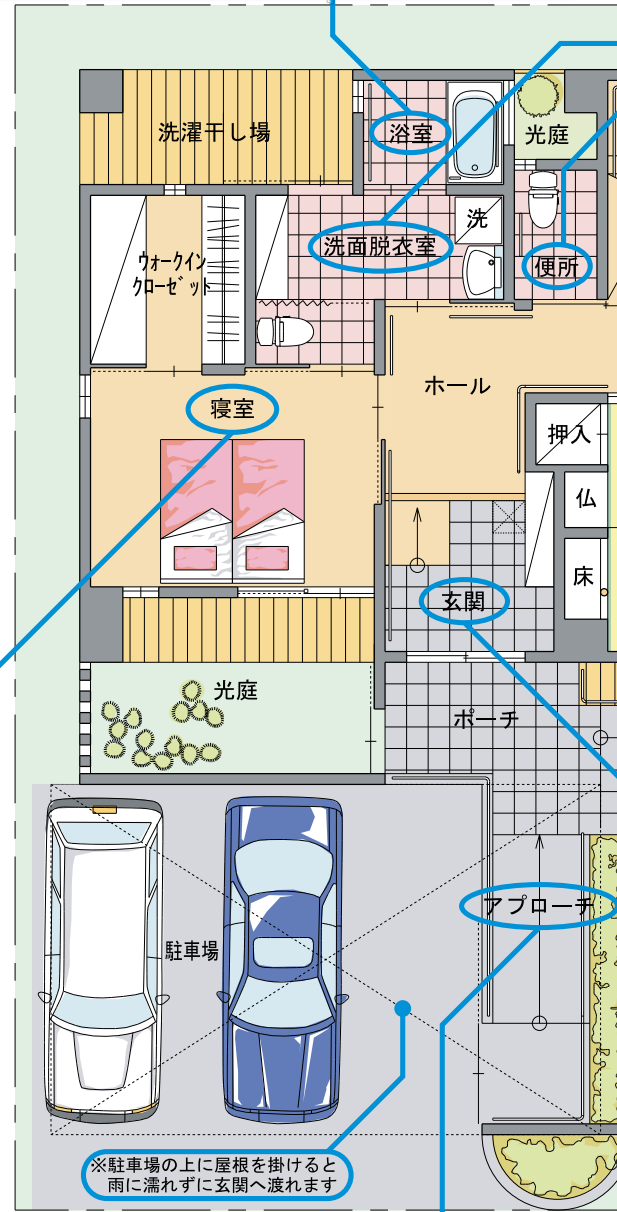
#### <浴室>

・要所に手摺を設ける



- ・非常時に通報可能なブザーを設置する
- ・浴槽はまたぎやすい高さにし、入浴移乗スペース（移動台）があると便利
- ・水に濡れても滑りにくい床材とする
- ・排水設備（グレーチング）などを利用して段差をなくす

・介助者が動きやすいスペースを確保する



#### <寝室>

・近くに便所・浴室を配置する  
または、将来増改築できる様に配置する



・直接外部に出られる様な掃き出しを設ける

・非常時に通報可能なブザーを設置する

・機器類は大きなスイッチで、ベッド上でも利用できるリモコンにする

・入口は引き戸にし、段差を設けない

#### <アプローチ・駐車場>

・駐車場に屋根を設置すると、車いすの乗り換、傘差し等に便利

・緩やかなスロープ・手摺等を設けて通行しやすい様に配慮する

・アプローチは、外灯と足元灯で適度な明るさにする



・滑りにくい床材とする

<洗面脱衣室>



- ・出入口は引き戸、または折れ戸にする
- ・使いやすいレバー式の水栓金具にする
- ・腰かけた状態でも利用できる洗面台にする

・着脱衣動作がしやすい十分なスペースを確保する

<便所>



- ・建具は引き戸または外開きにし、外から容易に開錠できる様にする
- ・排水溝（グレーチング）を設け、段差のないつくりにする

- ・手摺を設ける
- ・非常時に通報可能なブザーを設置する
- ・介助者が動きやすいスペースを確保する

<階段>



- ・手摺を設ける
- ・段鼻の色を変えたり、足元灯を付けて段差を分かりやすくする
- ・階段の昇り口は廊下から距離をおく

- ・昇降のしやすい緩やかな勾配にする
- ・踊場を設けて、万が一踏み外した際の安全を確保する
- ・滑りにくい床材にする
- ・十分な通行幅を確保する

<キッチン>

- ・レンジフード等のスイッチの位置を低めに設ける

- ・調理台にも照明を設け、手元を明るくする

- ・コンロは安全に配慮した操作のしやすいものにする
- ・腰かけての利用もできる膝が入るスペースのあるキッチンを選ぶ
- ・使いやすい高さの収納スペースをつくる



- ・水栓金具は容易に温度調節が可能なレバーハンドル式にする

<廊下>



- ・手摺を設けて体を支えやすい様にする
- ・車いすを使用する場合は、背の高い幅木を設置する

- ・通行の邪魔にならない十分な幅を確保する
- ・不用意な段差を設けない様にする
- ・足元灯を設ける

<玄関>

- ・入口は引き戸とし、出入口の幅はゆとりをとる



- ・外出用の車いすを置くスペースを確保する
- ・段差の前に縦手摺を設ける
- ・椅子・ベンチがあると靴の履き替えが楽になります
- ・滑りにくい床材にする

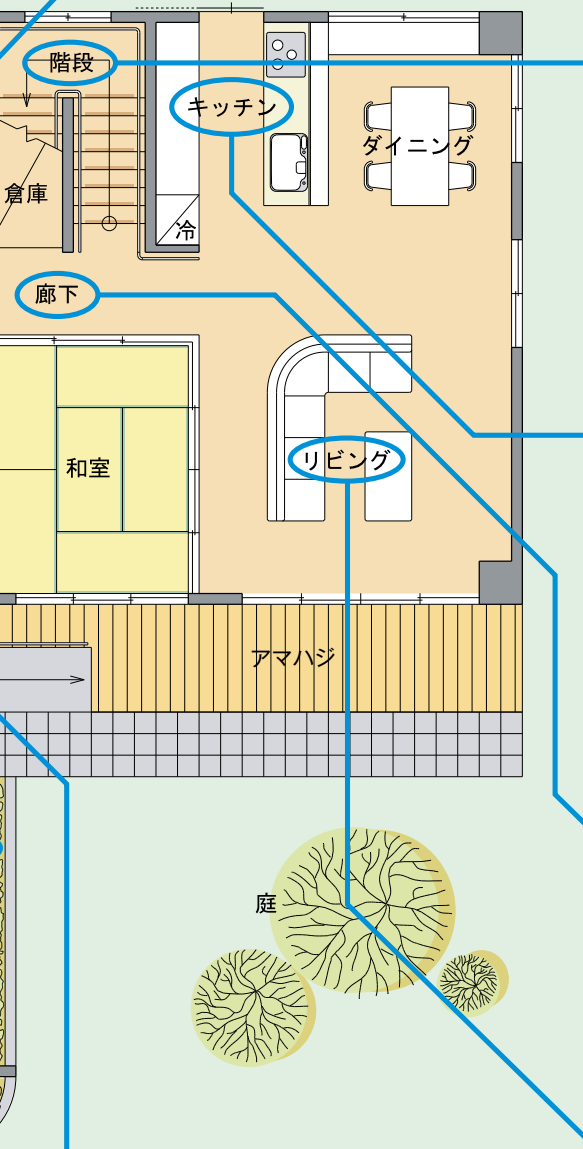
- ・足元がはっきり見える様にフットライトを設置する

<リビング>



- ・沖縄の行事では、和室を他の部屋と続き間として利用する事が多く、和室とリビングを一体として使える様に配置し、更に両端から直接アプローチできる様にするると便利である

- ・フローリング等の足腰に負担を掛けない床材を選ぶ
- ・不用意な段差を設けない



## (2) 台風対策

### ■ 窓・ドアなどのガラス

窓ガラスは、風圧や飛散物の衝突で壊れることが多く、割れたガラスの破片でケガをする危険性が大きくなります。室内に強風が吹き込むことにより、内壁・天井・照明・家具などにも損害を被り、被害が拡大します。

#### ・雨戸、シャッター、防風スクリーン・ネットなどで窓ガラスを強風や飛散物から防御



雨戸



シャッター



防風スクリーン

ネットは飛散物の衝撃を和らげることでガラスを保護します

防風スクリーンを設置するのに予め丸カンやフックを設置すると取付けやすいです

#### ・ガラスの飛散防止

**飛散防止フィルム：**通常はガラスの室内側にフィルムを貼ることにより、衝突物の貫通と割れたガラスの飛散を防止します。

**あわせガラス：**2枚のガラスの間にあるフィルムが衝突したものの貫通を防止します。また、割れたガラスの飛散も防止します。

### ■ 屋根瓦

屋根瓦も台風被害の発生しやすい部分となっています。屋根瓦は破損に伴い、強風で飛散することにもなり、ガラスなどに衝突する危険な飛散物となります。二次的な被害防止のためにもしっかりと対策を講じましょう。



漆喰



ビス止め

### ■ エアコン等の室外機

エアコン用の室外機についても台風による被害が多発しています。金具やワイヤーによる固定で回避できます。



転倒対策

資料：「わが家の台風対策」大同火災海上保険会社提供

## (3) 健康

### ・シックハウス

シックハウス対策は、内装材や家具に化学物質が発生しない規制対象外の建材・製品、または、F☆☆☆☆の製品を使用し、換気扇等を用いて常に室内の空気を入れ替えます。

## 2-6 地域の素材を活用する

住宅には、鉄筋・コンクリートをはじめ沢山の材料や製品が使用されています。地場産の資材を活用し、地域性・個性豊かな、丈夫で長く住みこなせる家づくりを楽しみましょう。



2段葺きとした赤瓦屋根とシーサー石垣塀（壁）と漆喰壁（新垣家住宅）



赤瓦で飾った屋敷囲い（壺屋 やちむん通り）



漆喰は瓦のおさえ材でもあるが、調湿機能のある内装材として使用



琉球がすりを建具の小窓にあしらう（染織物代用可）



花ブロックは日ざしをさえぎりながら風を通す部材



月桃紙は障子・フスマ・壁紙等に使用



琉球ガラスは鮮やかな色彩をもち、光の演出が楽しめる

## 2-7 湿度について考える

### (1) 結露とは

材料の表面温度がそこに触れる空気の露点温度（空気中に水蒸気を保持できる限界の温度）を下回ると、空気中の水蒸気が凝縮されて水滴となり材料表面に付着する現象を結露と言います。冷たい飲み物を入れたコップの表面に水滴が付くこと、冷房中の部屋の窓ガラス外側が曇ること、朝方に金属製屋根や草の葉に朝露が付くことやコンクリート表面に水滴が付くことなども全て結露現象です。



コップにつく水滴



ガラス窓外側につく曇り



葉っぱにつく朝露

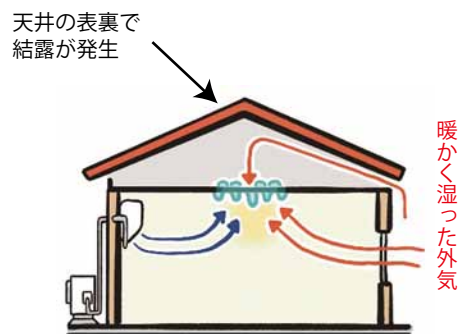
住宅においては窓や壁・床・天井の表面で発生する表面結露と、壁内や床下、天井裏、階段下収納などで発生する内部結露があります。それぞれ要因や対策が異なりますが、基本的には温度が低い部分に暖かく湿った空気が触れることで発生します。いくつかの要因が複合的に関わっており、間違った対策を行うと再発を起こしてしまうだけでなく、逆効果となる場合もあるので注意が必要です。



表面結露の事例  
(冬のガラス窓内側の水滴)



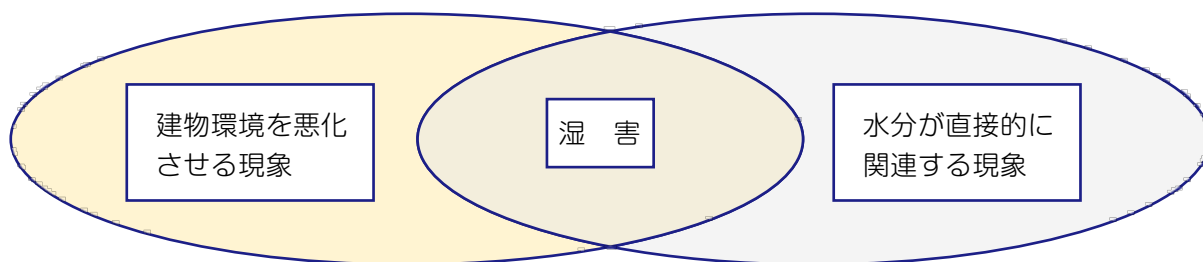
内部結露の事例  
(天井裏のスラブ下面の水滴)



冷房による結露  
(イラスト提供：㈱タイムス住宅新聞社)

### (2) 湿害とは

日本建築学会環境基準では、建物環境を悪化させる現象のうち水分が直接的に関連するものを湿害と定義しています。主な現象としては、カビ、腐朽、濡れ、変色、膨れ、剥離、軟化、腐食、錆、藻類、苔等があります。



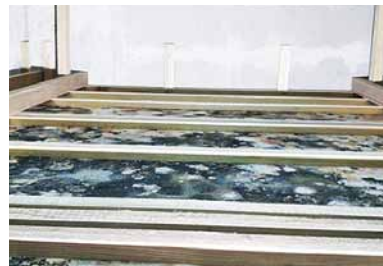
## 湿害事例



表面結露（キッチン側板のカビ）



内部結露（窓周囲の壁紙裏側のカビ）



内部結露（天井裏のカビ）

寒い地域においては、冬場に室内で発生した水蒸気が冷えたガラス面や壁体内部で結露することで湿害に繋がる事例が数多く発生します。しかし、湿度の高い沖縄では外気に含まれる水蒸気量が多い為、外気由来による結露が発生し湿害に繋がる事例が見られます。見かけ上は同じ結露現象ですが、寒い地域と暖かい沖縄では対策方法が異なります。湿害は空気中の水蒸気だけでなく、雨漏れや配管からの水漏れ、コンクリートや木材の持つ水分が関わることもある為、発生要因に応じた対策を取ることが重要です。

### （3）結露対策

結露は自然現象のため完全に制御するのは難しい事ですが、設計者は建物が建つ土地の環境と住み手の暮らし方に応じた設計をする事、施工者は施工中の水分に気をつける事、住み手は暮らしの中で水蒸気を溜め込まない事や冷やしすぎない事が重要となります。建物の立地環境や用いる建材、暮らし方等により方法は異なりますが、以下に対策例を示します。

#### a) 設計時

- ・水蒸気の滞留しそうな場所には風の通り道を考慮する
- ・吸水性や保水性の高い素材を用いない
- ・調湿機能のある素材（漆喰や無垢の木材等）を仕上に用いる

#### b) 建築時

- ・施工時に建材を湿らせない（乾燥期間を確保する）
- ・建材が湿った状態で仕上げ作業等の密閉はしない
- ・給気口やエアコンスリーブ、電気配管等の隙間を塞ぐ

#### c) 暮らし方

- ・夏期のエアコンの室温設定を低くしすぎない
- ・冷房風を同じ場所に当てない（スイングモードの設定や扇風機の併用）
- ・外気の湿度が高い時に換気扇を廻しすぎない（床下や天井裏に高湿な外気が入り込む恐れがある）
- ・調理に伴い発生する水蒸気を屋外に排出するため、料理中はレンジフードを廻す
- ・入浴後は浴室の換気扇を廻す（また、浴室の室内側ドアを閉め、窓を開けて水蒸気の外部への排出を促す）
- ・室内干しする際には除湿機や換気扇などで空気中の水蒸気を取り除く
- ・晴れた日には布団やソファなど水蒸気を含んだ家財を日光や通風で乾燥させる（日が暮れる前に取り込む）



天井裏の換気を行う換気棟の設置



コーキング材による給気口の隙間処置

## 2-8 外構のくふう

敷地の利用の方法は、土地の形状や高低差などによっても様々ですが、まち並みの景観形成にも大きな影響を及ぼします。住む人の個性を尊重しつつ、まち並みとの調和にも配慮した外構計画が望まれます。

### 伝統的な表情



赤瓦と石積みのある落ち着いた住まい

### セットバック



道路からセットバックすることで周辺へのゆとりを感じさせる

### 緑化による表情



生け垣等による緑化で表情を柔らげる

### 周辺への開放



前面の空間をポケットパーク的に開放する

## 2-9 良好な街並みを考える

### (1) 住民主体となるルールづくり

建築物は、建築基準法などで、規模や用途、構造、材料など建築物に欠かせない要素についての基準が定められています。それらの基準は広域的な見地から定められているため、個性あるまちづくりや地域特性を生かした環境づくりを地域で行うためには、きめ細かな基準が必要とされる場合があります。

地域・地区では、住民同士の話し合いと合意形成を基にして、建築物に関する基準やルールを定めることができます。行政は「建築協定」や「地区計画」等の地域独自に定める制度をより良く策定するため、支援・誘導を行っています。



「那覇新都心地区 地区計画」 那覇市新都心A地区  
戸建て住宅を基本としたゆとりある低層住宅地の形成を図っている。住宅地の道路は道幅が広く取られており、安全で使用し易くなっています

## (2) 建築協定

### ■ 建築協定とは(住民主体)

建築協定は、その建築物に関わる全権利者の合意のもと、敷地・構造・形態について取り決めをする協定です。建築協定を結ぶには、協定目的の区域、建築物の基準、有効期間、協定違反への措置などを定めた建築協定書を作成し、特定行政庁の認可を受ける必要があります。

### ■ 建築協定を結ぶ利点

建築協定の内容により様々な利点生まれ、地域がより良く変わります。

- ・美しく調和のとれたまちづくりができる
- ・住み良い住環境、周辺環境をつくることのできる
- ・商店街等を利用しやすく便利にすることができる

### ■ 建築協定のメリット

住民が協力し合い、自らの手でまちづくりを考え、実行できることです。建築協定を最大限に利用し、明るく活気のある街、環境の良い生活、豊かな街にしましょう。



「アペックスタウン首里石嶺 建築協定」首里石嶺町  
敷地が整理されており、各住戸がバランスよく連続しているので、美しいまちができています

## (3) 地区計画

### ■ 地区計画とは(住民と行政との連携)

地区計画は、市民に密着したまちづくり、共通した特徴を持つ地域ごとの特性に応じた、良好な環境のまちづくりを目指すものです。土地所有者など、利害の関係する皆さんと行政がともに、建築物の用途や高さ・形態等、道路、公園等の制限など、きめ細かいルールを作っていく、都市計画として定めるものです。

### ■ 地区計画の内容

地区計画の目標・方針

- ・これから地区をどのようにするかという将来構想を定め、地区計画目標や地区の整備、開発、保全等の方針を定めます。

地区整備計画

- ・地区計画の目標・方針を定めた後、それに沿った具体的な計画ルールを定めます。地区計画区域の全体もしくは一部に道路・公園・広場など公共施設の配置計画を、建築物等に関する制限などを詳しく定め、計画図を作成し図示します。



「真嘉比古島地区 地区計画」那覇市真嘉比  
住宅の塀は、構造体だけではなく様々な植生を使用しています  
開放的なフェンスの裏や塀の前に植生を配置して、緑あふれる開放的なまちを目指しています

### ■ 地区計画のメリット

地区計画を定めた場合、市町村への届け出が必要となります。建築物が適合審査をクリアすることにより地区計画で目標としたまちづくりを推進することができます。